

## 1. はじめに

私は、2021 年度の派遣留学生として、10 月 4 日よりイギリスのレスター大学 (University of Leicester: 以下 UoL) の English Language Teaching Unit (以下 ELTU) にて活動を行っている。以下、11 月分及びプログラム終了までの報告を示す。

## 2. 勉強面について

### 2.1 授業について

授業は、Oxford EAP (以下、コースブック) の教科書に基づいて行われる。コースブックは全 12 章で構成されており、10 週のコースではすべての章を授業内に行くことはできない。そのため、1~4, 7, 9~10 章のみを授業で行い、残りの章は自主学習を推奨されている。

10 月はアカデミックな単語や文法がメインなイメージであったが、11 月以降はエッセイに関する表現方法について学習した印象だった。学習したエッセイは以下の 4 つである。

- Comparison and contrast essay
- Argument essay
- Cause and effect essay
- Evaluation essay

それぞれのエッセイについて、Introduction, Main body 1, Main body 2, Conclusion の典型的な書き方を勉強する。先生曰く、ここで習うのは一番基本的な一例であり、シンプルな構造だそうだ。しかし、日本で生活していた時とは馴染みのない文法や単語・表現が使用されるので 4 技能の中で一番理解が追い付かなかった。最終週に行われる Writing のテストでは、4 つのうち 1 つの表現方法がランダムで出題される。

また、授業は先生ごとに方法が異なる。担当の先生がホリデーや病欠のため、2 週間ほど毎日違う先生の授業を受けた。それに伴い提出する宿題がなくなってしまったため、自主学習がより重要となった。先生によっては文法を重要視する先生、話すことを重要視する先生など様々であった。そのため、生徒と先生の相性によって伸びしろが変わる印象を受けた。

### 2.2 試験について

Module C では第 6 週の木曜日・金曜日に Mock test, 第 10 週に期末テストが行われる。どちらの試験もパソコンを用いて行われた。Speaking と Writing は 10 週の授業と直接的な関係があるが、Reading, Listening は授業で勉強した文法や単語が出てくるわけではないので対策が難しいように感じた。Listening, Reading どちらも選択問題である。

Reading は全部で大問が 5 問あり、回答時間は 90 分

大問 1 文章の並べ替え 文章を並べ替えてストーリーを完成させる

大問 2 単語の穴埋め 文章から空白の単語を選択肢から選択

大問 3 長文読解 長文を読み 4 つの選択肢から正解を選択

大問 4 トピックセンテンスの選択 文章を読みトピックセンテンスを選択する

大問 5 要約 文章を読み要約の流れを選択

Listening も同様に大問が 5 問あり、回答時間は 60 分

大問 1 1 分ほどの短い会話や講義などを聞き 4 つの中から正解を選択、全部で 10 問

- 大問2 3分ほどの会話もしくは講義を聞き Correct, Incorrect, Not mention を選択  
 大問3 1分ほどの会話や講義などを聞く選択問題. 大問1よりもスピードが速い  
 大問4 5分ほどの会話もしくは講義を聞き正解を選択 長文読解に近い  
 大問5 1つのトピックに関する2人の異なる視点の意見を聞き, 話題を選択

Module A~Cは同じ形式・レベルの Reading & Listening テストを受けるが, 評価基準はそれぞれのコースごとに異なるようだ.

Mock test は最終成績の評価には関係ないが, Writing, Reading, Listening の3技能について評価を受ける. この評価をもとに, 残りの3週間をどのように過ごすか担当の先生と面談をし, 自主学習を行った. 私は, Listening が特に悪かったため, TED, BBC 6min, 英語で映画を見ることを推奨された.

期末試験について, 10週目の月曜日(12月6日)の9:30~10:30に1時間の Writing test, 11:00~13:30に一人当たり15分の Speaking test, 火曜日(12月7日)の13:30~16:00に Reading and Listening test が行われた. 結果は木曜日(12月9日)の17時に Black board というポータルサイトで発表される. また, 成績が F (不可) になった場合, 1回のみ再テスト (resites) を受けることができる. 残念なことに, 私は Writing test で F 評価を取ってしまったので再テストを受けた. その際, テストでの良かった点・悪かった点をメールで教えてもらい, ELTU が Black board 内で提示している練習ツールを利用し対策を行った. 結果は10日の17時頃に発表とのことだったが, 採点が追いつかないので13日に発表しますとメールが来た. 結果は, 何とか合格をいただいた.

### 3. 授業以外について

#### 3.1 ELTU での活動

コロナの影響を受けてか, ELTU 自体で行われるイベントは10週になるまでなかった. 昨年, オンラインで受けていた時のほうがコース間を超えた交流の場が設けられていた.

12月10日の午後2時から Christmas party が行われた. 全コース参加可能で, 簡単なゲー



図1, クリスマスのお菓子



図2, 雪合戦

ムやクラフト、お菓子などを体験した。他のコースの方々とは Common Room(談話室)もしくは廊下ですれ違うぐらいしか交流がなかったので、オンラインでもいいので交流の場が欲しかった。

図2は雪玉に見立てた毛糸玉での雪合戦だったのだが、大人が本気で遊んでいて盛り上がった。

### 3.2 ELTU 以外での活動

Globe café という留学生向けの活動に参加した。International Students に向けてのサポート、交流の場を設けてくれるレスター大学とは直接関係のない団体である。私はこの団体について知らなかったが、現地で長尾さんに教えてもらい参加をすることができた。毎週月曜日の19時半ごろと土曜日の13時頃から活動が行われ、それぞれの国の戦争やお祭りに関する話やクリスマスに関する歌を歌った。また、日帰りキャンプで火起こしやジェスチャーゲーム、ボードゲーム、ホームビジットのような体験をすることができた。

日本ではプディング＝プリンイメージだが、イギリスでは、プリン以外のデザートもプディングと呼んでいるそう。衝撃的だったことは、日本のカスタードクリームはシュークリームに入っているような甘くて冷たいものであるが、イギリスのカスタードは暖かく、卵の味が強く固まっていないプリンのようなものだったことである。

ELTU では、勉強としての英語を勉強することができるが、Globe café では国際交流や日常会話としての英語を勉強することができる。プログラム終了後も SNS をつかってつながることができるので、今後も交流を続けていきたい。



図3, ジェスチャーゲーム  
お題：何かの下で写真を撮る

## 4, おわりに

11月以降は試験に向けての対策が怒涛に始まり、第9週はどうにかして合格させるための対策が行われていたように感じる。試験対策の難しい Reading, Listening では、似たような問題形式のクイズを出しているサイトを提示された。特に ELLLO というサイトは、英語の選択問題を各自のレベルごとに学習することができるので今後も使い続けていきたい。

2週間ほど担当の先生が不在で、臨時の先生が担当になった時は、いろんな先生の授業を受けることができる貴重な機会だと思った反面、先生ごとに方針が異なるため慣れず学習が困難になっ

た。日本では担当教師が不在になった場合、レジュメを見て似たような形式の授業をするようにしたり、補講があることが多いが、イギリスでは担当教師が不在でも終わった単元のアフターフォローはないようだ。日本とイギリスの自主学習の重要性の違いを感じた。また、学習面でいうと、イギリスの生徒は子供のころから1時間で1000word以上の長文を書くことを日頃から訓練されているようだ。中国人のクラスメイトとは、小さい頃から練習していればできるよねと話した。同じフラットの方がキッチンで宿題をしている場面に遭遇すると高頻度で論文を読んでそれに対する感想かまとめのようなものを書いていたので、イギリスと日本の教育方針の違いの一つのように感じた。

英語を使うときにどうしても、  
英語を聞く（見る）→日本語に変換する→聞いたことに対する答えを日本語で考える→日本語を英語に変換する

というツールを使ってしまっているの、どうしても返答に時間がかかってしまう。ELTUやGlobe café、友達との会話では、私が返事をするに時間がかかることをわかしてもらえているため、回答を待ってもらえるが、レスター大学近辺の外に出るとそれは通用しない。サブウェイに行ったときに、注文の際に全くわからないフレーズを言われたので理解しようと聞き返したが「It's OK」と会話が終了してしまった。もし、この聞き取れなかったフレーズが重要な会話や、話しを膨らませる何かだったのであればと思うと、改めてレスター大学の外は実践であふれていた。

また、日本とイギリスのホームレスの違いを感じた。偏見ではあるが、イギリスのホームレスの方は日本よりもアクティブである。電車の中でお金をくださいと言いまわったり、道端で頻繁にパフォーマンスのようなことをしている。特にそれを感じたのはロンドンに行ったときである。ロンドン・アイの近くにあるウェストミンスター橋を歩いていた時、ホームレスかはわからないが白塗りのピエロのような恰好をした方に話しかけられた。観光客をターゲットにしているようで、いきなり握手され、写真を強要された。最初は断っていたが、しつこく追いかけて仕方なく写真を撮ると、お金を払えと言われた。本当に現金を持っていなかったもので、「現金を持っていないです」と言って乗り切った。トラブルにならなかつたからよいものの、こういう場面に遭遇したときの対処法を勉強しておくべきだった。

約3カ月のイギリス留学は、あっという間でやり残したことや、やってみたかったことがたくさん残っていて大変心残りである。できるだけやりたいことを詰め込もうとじっくりと美術館や博物館に行くことができなかった。しかし、コロナ禍という状況の中、あきらめかけていた留学が短期間でも経験することができ幸運であった。帰国後も英語の学習は止めることなく、今後も継続して行いたい。

以上で11月及び、プログラム終了までの報告を終了する。